



第667号

令和3年1月23日

題字は二代真柱様

大阪市北区池田町13-17

天理教はるのみ分教会

TEL・FAX

06-6358-2630

陽気ぐらしへ学びと試み

はるのみ館



▶はるのみホームページ▶  
▶QRコード▶  
▶毎月発行▶  
▶1日1回▶  
▶2021年▶  
▶天理教▶

## 『陽気暮らしと民主主義』

世界中で民主主義が劣勢に立たされているといわれています。

〈陽気暮らし〉と〈民主主義〉には共通点がいくつかあるように思います。

① ① 先ず、どちらもメンバー一人一人の自由と自主性が互いに尊重され、発揮される〈場〉のありかただということですから、多くの人々がめざす目標ではありませんが、それがかなえば終わりという最終目標ではありません。

〈場〉の雰囲気という言葉に代表されるように、どちらもよい雰囲気が醸し出される〈場〉なのです。父が心筋梗塞で危篤となったとき、あるいは母が頸椎損傷して手足が麻痺したとき

一瞬たじろぎましたが、どのように受けとめどのように投げ返すかを思案し決断・実行に努めたので家族も信者さんたちも決してひるむことなく、むしろ勇んで大きな節（ふし）に立ち向かいました。

家庭や教会は緊張をはらんだ〈陽気暮らし〉の〈場〉となり

父はひと月で、母は8か月で退院し奇跡的に復帰することができました。

次に② 〈陽気暮らし〉も〈民主主義〉もレベルの違いがあつて、メンバー各自のレベルがそれを決めます。

野球やサッカーのチームとしてのレベルは、チームメイト一人一人のレベルによって左右されるのと同じです。③ 優秀だからといって特定の人にすべてを任せるとやがて独裁におちいるかも知れません。

リーダーはリーダーシップを取らなければなりません、各メンバーもいつでもリーダーになれるくらいみんなが和を重んじながら、レベルアップをはかることが大事です。



# 十二月月次祭祭典講話

芝 光男

## 『結婚して四十年を、振り返って』

(大幅に、加筆訂正し、読み物にしました)

先月十一月の一日に、天理の柳本というところに一つの教会が移転してきました。大幸(おおさち)分教会という大阪にある大江大教会の部内教会です。私はこの会長さんと同じ歳で天理高校の同級生です。同じクラス、大学も同じで、彼はフランス語学科、私は国文科で仲良く親友であります。悪いこともぎょうさんしましたが、でも彼は真面目ですので、お道一条でしっかりしてました。私は東京へ行き天理に帰ってきました。

私は昭和五十五年に結婚しました、一九八〇年。今からちようど四十年前。その明くる年の昭和五十六年に、うちの初代会長が倒れました。この年に、彼は大阪の吹田で、この大幸分教会という教会名称を頂かれました。信者さんもあまり

いなかったと思います。僕は一応親しかったですし、布教の家も終わり、道友社におりましたので、鎮座祭のお手伝いに行きました。どんな教会かというところ、神床が四畳半なんです、六畳一間の参拝場なんです。そこでおつとめした。僕は、こんな教会大変やな、と思ったんです。そして、それから四十年経ちました。それが今回奉告祭をした教会なんです。先月新しくなった教会は、土地が三百八十坪、建物が大きくて、信者さんがどれだけおられるかは知りませんが、立派な教会になりました。奉告祭は、こんなコロナの中だから誰も人を集めない身内の方だけでされた。僕らもお祝いに行かなかつた。しかし、やつぱりどうしても僕もお祝いに行きたかつたので、その夜にお祝い参拝に行きました。

で、帰る時に私は「あーやつぱり天理教通る限りは会長にならないとあかんあ、親父の言うた通りやな」と思いました。

「教会長に、ならんとあかん」

何故それを思ったかというところ、うちの初代会長、父が生きている時に私に言った言葉です。「お前な、天理教なるんだつたらな、教会長にならないとあかん。でないと意味がない

からな、会長にならなあかんで」ということをよく言っておりました。

その時に僕のいた道友社で本を作ってる先生方がたくさんおられました。評論家の先生もいました。

しかし父は、「大学の教授も、あの先生も偉いし、この先生もちゃんとしたこと言うし、色々なものを書いて本にするけどな、でもな教会長にならないとあかんで。少々アホでもバカでもあんな奴よう教会長やってるわと思うような奴でも、会長という名がついたらみんな立ててくれるし、末代名前が残るで。だから光男、お前、会長にならなあかんで」ということをよく私に言っておりました。

なるほど、今でも、本部からのご用があるとき、「芝さん、教会長さんやったら、してもらうのに」と言われたこともありました。

だからその彼の奉告祭から帰る時に、「あーなるほど、親父の言うた通りやな」という風に思いました。

でもその当時、親父に「天理教やるなら教会長にならなあかんで」と言われたても、心の中で、「そらそうかもわかへんけども、うちは小さな教会「はるのひ」やないか、部内も年春だけあるだけやし、信者さんができたら、皆直属に

して教会の信者さんにしたらええやないか」と。だから自分が教会を作ろうという気はありませんでした。

私が、なれるかどうかはわかりませんが、教会長になろうとする機会は二回ありました。一つは北海道の布教の家を終えた時に残るかどうかに迷った時、もう一つは、父に言われた時に、布教地を決めて、どっかで頑張って布教するという。二回チャンスはあったと思います。

が、実はその時にどっちも思わなかった。はるのひで私なりに頑張って、もし信者さんができたり力がついてきたらみんな上級のはるのひにつないでもらったらいいやないかと思っておりました。

「話所に入ったらアカン」

もう一つ。父が倒れたのは私の結婚の翌年、昭和五十六年です。父は三ヶ月間入院しました。いまやったら一週間で退院ですが、その時は約百日入院しました。その時に父の病室傍らに付いていたのは私です。ほとんど勤務先の道友社には行かず、ご飯の世話から何まで、それに話し相手、いやよく怒られていました、気が利かないから。厳しくて涙が出たこともありましたね。

当時、私は結婚して丹波市の前に詰所に入りました。でも父が倒れたときに私はそこを出て、二年前にできたばかりの今の詰所に入りました。父の看病もありましたから。そして病院に行つて、「こうこうで詰所に入った。一部屋を借りて入りましたよ」と親父に報告しましたら、ぱつと目を開けまして、

「わしが元気やつたらお前は絶対詰所入れへんかった」つて言いました。

詰所なんか入つたらあかんということ言うたんですね。何を言うてんねん、状況から、私ら夫婦が入らざるをえないですからね。そんなに話する元気やなかったから、言えなかつたんですけど、へーと半分聞き流していました。

「そんなんしゃあないやないか」と。で詰所に入つて、しばらくして親父が退院してきました。親父は詰所におりましたので、いろいろ話をしました。はつきりした答えはなかったですが、私を外に出して布教をさせようと思つていたようです。

話をしていたときに、

「お前はお道の御用をしてもいいけど、兄貴と同じことをしていたらあかんのや。兄貴が教会にいて、お前が詰所にい

たら、お前は一生兄貴の下におらなあかん。お前の世界をつくらなあかんのや」と親父は言つたんですね。

だから私は父から言われた「お道を通る限りは教会長にならないとあかんのや」と「お前は詰所なんかに入らあかんのや」と、その二つが、バシツと頭にある。

だけどその時は私は二つの意味が分からなかった。しかし今回、この彼の大幸分教会の奉告祭があつて行つた。あれから四十年。彼は彼の道、私は私の道で通つて来た。今、この会長と私は、事情部で同じ講師です。おなじ御用をしております。

私は新神殿に参拝させていただいた帰り、親父の言つてゐることはこういうことやつたんやな、と思ひました。

ああ、教会長というのはすごいな、やつぱりならなあかんかつたんやな。わしにも、やつぱり教会を作る道も通り方の一つにあつたかもわからないな、と思つたんですね。

私ら夫婦の道

だけど私はそう思つたときに、同時に家内と通つた四十年もまた、精一杯の道やつたなと思ひました。昭和五十五年に結婚して、四十年経つた。

昭和五十四年に、三代真柱がこられて母屋の開所式をした。その時のあいさつに、真柱は「この詰所が、いつも人が出入りする賑やかな詰所にするように」と言うたんですね。僕はそれを強く覚えてる。だけど、大きな大教会だったらいつも修養生や講習生が出入りするけど、部内は一カ所やし人がそんなにいつも来るわけじゃ無い。

私らが詰所に入った時、「どうしたらいいかな」。やり始めたときに頭にあつたのはそれやった。どうしたらいいかなと思って、とにかくこの詰所をいつも人が出入りするようになければ、と思った。

なぜかと言うと、皆さんあの詰所は△階建てです。そうすると住むのは私達家族だけです。私と家内と、子供で来たけど。もし、もう誰も来なくていい。修養生もなくていい、誰も詰めなくていい、おちばに帰ってきたときに、ちよつと寄ってくれたらお茶出すぐらいするけども、わしらは家族だけで暮らすねんや、と言ったら、それはそれで通ったと思う。だけどそれをしたら、あの詰所というのは信者さんがたの真実と莫大なお金をかけて建った詰所です。だからその中に僕ら夫婦と家族だけで「わしらの家や」なんて思いで住まわせてもらって、誰も出入りさせんかったら、皆さん方信者さん

方の真実と徳で、わしらは恩を受けるだけで、それでは「運命は潰れる」と私は思った。だから、人のお世話をしよう、させてもらおう、いやそう思わなくても、「お世話取りしないといけないように」なってきました。

とにかくいつも人は来るようにしよう、それにはどうしたらいいか。それを考えた時に誰でもいいから、誰でもいいわけじゃないけど、住み込みを置こう。学生を置こう、こういう風になつた。落語会もした、洋裁学校も貸してる。いろいろな教室にも使ってもらった。△年いろいろしてきました。なんとかいつも人が出入りする。人が居るようなことをしてきましたと思います。

今現在でも、詰所は一階二階三階四階どこも、誰かが住んでいます。あの階には誰もいない、ガラランガラランやたらんようになつて、いつでも建物を使つてるように活用しようとして△年やってきました。△年間には本当に大変なこともありました。

痴呆老人の方が同時期に3人居たときもある。外国人ばかりで、中国人預かつたときは、中国人の女の二人、廊下で殴り合いするんですよ。そんなときもあった。百年祭前後にはヤクザが三人ほど居たときもあった。面白いもんで集ま

るときには集まる。痴呆老人ばかりのとき、外国人ばかりのとき、そういうのが集まる。修養科生も、なんやかんだいって、50人ほどお預かりさせて、十分できたかわかりませんが、とにかくそれでもやって来た。多いときは十何人、家内は二十分近くの飯を作っていたこともあった。百年祭前後の夏のこともおぢば帰り、二百人おったんですよ。食堂から廊下まで埋めて、全部やって、よくやれたとおもう。この四十年、父、初代会長の「教会長になれ」「詰所には入らず、布教に出よ」という思いには添いきれなかったですが、なんやかやと通ってきました。

力になったのは、それを文句も言わず共にやってきてくれた家内のおかげです。家内が「もうしんどい、出よう」といったら、私はこれ幸いと出て行っただけです。実際転居先を探したこともありました。

でも、それが、私たち夫婦が通らなければならぬ「運命」だったんです。それから、私たちは逃げなかった、ま、逃げられなかった、ということでしょう。

大幸分教会長の彼も、彼でもものすごく苦労したと思います。吹田の教会を出て二十年間詰所で神さん祀ってたんです。おそらく彼もしんどい辛い思いをしたと思います。なんで詰所

におるねん。といつて、部内や信者さんから辛い目をしたんだと思いますよ。きつと。それでも今、りっぱな教会を作りあげたんです。

彼の道と僕の道は違う。1988年から2020年、40年、彼は彼、この人はこの人で生きてきたんだな、と思いました。この四十年おる間に、僕は57歳の時に病気になるりました。暴飲暴食自業自得で倒れました。その時のことは本当に忘れないうです。憩の家での検査結果表から見ても、お医者さんもそうですし、友人の検査技師ふたりが見ても、癌ですね。もう末期ですと言っていましたから。それはそうにもならないでいた。そして三叉神経痛。手術で普通はピタツと終わるんです。それが私も未だにまだ終わらない。2回手術しても未だに治らない。死ぬときは痛いのはかなわんって思ってるんだけど。私は、彼の生き方と私と家内が通ってきた道を思う時に、「ああ、この道で、これで良かったんやな」と本当に思います。

私は天理教の教えというのは「運命論」やと思います。一人一人、病気で苦しんでる人も居る。事情で苦しんでる人も居る。あんな旦那と結婚して、こんな嫁さんもらって苦しんでる人も居る。思わぬ人生を通ってる人、それはその人が通

らなあかん運命なんですよ。避けようがなにをしようが。

それぞれの運命、それぞれの道。だけど、起こってきたことは心の受け取り方に寄って、見方、考え方変わります、後は。だから心通りの働きとは、心の理というのは、起こってきたこと、あるいは自分の位置についてどう思うかということによって後は変わってくるんだろうと思いますね。

私は、この四十年通ってきて、とくに家内はよくやってくれました。この人と通ってきて本当に良かったと思います。ある人に、今この話をしたときに、「面白いことを言ってくれました。」

「しつかり者はな、しつかり苦労すんねんで。うっかりものはな、うっかり得すんねんで」と言いました。

あの人しつかりしているな、頭をいいし、なんでもシヤキシヤキするし、と思っていると、意外とそういう人に限って苦労してる。ところが私らみたいなのはほんとして居る奴は、得してきたんやな、と思いました。

私は幸せものです。ぼやっとして、うっかりもので良かったと思います。いい家に生まれて、いい親父とお袋で、兄貴にも恵まれて、家内にも恵まれて、子供にも恵まれて、命死ぬところを助けてもらって来ました四十年。そやな、と思

ました。だから僕はぼやっとして良かったねん、と思っ  
ていますけど。うっかり者はうっかり得するねん、なるほど  
な、と思いました。

後十年で金婚式です。彼もそうです。だけど実は結婚して  
四十年まで連れそう人は多いんです。問題は、四十年から五  
十年、この十年を夫婦で通る人はなかなかないそうです。  
だから金婚式を祝ってもらおうというのはすごいことなんで  
すね。私の母が、父と母が金婚式がありましたよね。皆さん  
覚えていると思うけど、お祝いしましたこの教会で。その時  
お袋が僕に、

「お父さんとお母さんは金婚式を迎えたけど、お前らも金  
婚式を迎えなあかんねんで、太郎も光男も迎えなあかんね  
んで、でない」とこの金婚式には意味がないねん」と言った。

だから芝家は芝家の信仰をつないで、次に続けて、お前も  
金婚式迎える。お前も迎える、太郎も迎える。幸せにならな  
いと意味がないで」と何回も言いました。だから今だつて、  
あと十年と思ったときに、この後十年ほんまにいけるかどう  
か、ねえ。わからんですよね。生きたいし、生きようは思っ  
ているけど、命だけは神様の世界ですよ。

ある占い師が僕に、「ほんまもんの占い師の見分け方と嘘

の占い師の見分け方教えましょうか、その占い師にね『俺はいつ死ぬ』と聞いてください。私は何の病気で死ぬか聞いてください。その占い師があなたはいつ頃こんな病気で死にますねって言うたらその占い師は嘘ですよ。ほんまもんちやいますよ』って言います。なんでと聞いた。「あのね本当に腕のある占い師いうのは本当に力があるんだそうです。死ぬの生きるの、かなり当たるそうです。だけど、どんなに腕のある占い師でもその人の病気だとか死ぬ時期については絶対言わないそうです。なぜ言わないかと言ったら、死ぬというのは、宇宙、神さんの世界のことだから絶対言わない。言うてはいけないタブー。だから言うようなのは駄目ですよ、と。だけど、明日生きたいと思っても、それはわからない。

だから私は後二〇年生きたいし、生かせてもらいたいと思っっているけど、それはやっぱり神さんの世界やな、と。とすると、毎日なにするかという「感謝」するしかない。

「ああ、今日も生きたな」と。だから私は毎朝言うてます。「目が見えます、耳が聞こえます、鼻が匂います。口がしゃべれます、食べれます、ありがたいな」と挨拶で始まって、ありがとうございます、で必ず終わるようにしています。口癖のようにしている、人にも言っている。それでも守っても

らえるかはどうかはわからないんやなと思います。

詰所の月次祭は毎月二十九日の夜です。いつも参拝に来られる人に言う。「やっと一ヶ月終わったな、過ごせたな。ひと月きたんやな」。十二月に来たら、「一年が過ぎたんやな」と。その本当の感謝が大事やな、と思います。と皆さんに、そして自分に言い聞かせてます。

ありがとうございます。



## 天理教教典学び

芝 亮子

### 【第七章 かしもの・かりもの】

71頁11行目〜73頁最後

親神が、種々といんねんを見せられるのは、それによつて人々の

心を入れ替えさせ、或いは勇ませて、陽気ぐらしをさせたい、との篤い親心からであつて、好ましくらぬいんねんを見せられる場合でさえ、決して、苦しめるよう困らせようとの思召からではない。いかなる中も、善きに導かれる親心にもたれ、心を治めて通るならば、すべては、陽気ぐらしの元がいんねんに還元されて、限らない親神の恵みは身に遍く、心は益々明るく勇んでくる。

人の幸福は、その境遇に在るのではなく、人生の苦樂は、外見によつて定まるのではない。すべては、銘々の心の持ち方によつて決まる。心の持ち方を正して、日々喜び勇んで生活するのが、信心の道である。

即ち、身上かしの、かりものの理をよく思案し、心一つ

が我がの理であることを自覚して、日々常々、胸のほこりの掃除を怠らず、いかなる場合にも、教祖ひながたを慕い、すべて親神にもたれて、人をたすける心で通るのが、道の子の心がけである。そこには、自他の心を曇らす何物もなく、ただ、親神の思召のままに生活させて頂き、連れ通り頂いている喜びがあるばかりである。

このよふハ一れつハみな月日なり

にんけんハみな月日かしの

六

120

皆さんお元気ですか。私は毎年十二月に感話をさせて頂いています。去年の十二月に「来年はどんな年になるでしょうか。楽しみですね。」と最後に言わせて頂きましたが、皆さん今年はどうな年でしたか。良くも悪くも、本当に人類が皆忘れられない年になったと思います。

因縁というのは、個人の因縁もちろんですが、家系の因縁生まれてきた世代の因縁、生まれてきた国の因縁など、たくさんあると思います。今年起こった感染症は、今の時代に生きる人類全ての「世代の因縁」であると思います。今までの世代によつては戦争の因縁や地震などの自然災害の因縁はあったと思います。が、ここまで地球規模で人類一斉に同じ因縁を経験しているのは、

なかなかないことだと思えます。今日も人類皆、命をかけた因縁を経験しています。他人事ではなく、人類全員が自分ごとです。

私はこの因縁を通して感じるのはいよいよ時代がきた」ということです。いよいよ地球規模での大変革期の時を迎えていると感じています。今年一年、どんな立場の人も一斉に人生を一時停止させられました。一斉に自分の心と向き合う時間を与えられました。『今日を生きることが奇跡であること。当たり前が当たり前でなかったということ。なぜ生まれてきたかということ。何の為に生きているのかということ。生きるとは年齢に関係なく死と隣合わせであるということ。死んだらどうなるのかということ。一体自分とは何者なのか。このままいつ人生を終わってもいいのか。』今まで時間に追われ、お金や物質に翻弄され、誰かが決めた価値基準の中で、何となく生きてきて、気付かなかったことや、見ないふりをしてきた、心の奥深くの魂や潜在意識レベルのことと強制的に向き合わされたと思えます。

私はちようど五年前の今頃に修養科で初めて天理教の話を聞きました。以前にもお話したと思いますが、教えの真理は本当に国家機密と言つていいほどのものであると思えました。「人類皆兄弟。互い立て合い助け合い。」などの教えがありますが、女性的で温かく、人々は横に繋がり、自分の得意なことだけ合つて、

誰が偉いと、人間同士で支配し合うわけでなく、みんなが繋がりあつていている。人の心に、自分の姿を見て助け合う。目には見えない、精神世界を重んじ、高次元の神様を真ん中にして、調和を持つて共存していく。最先端の生き方であると思えました。

しかし、同時に、この考え方を人類に広めるなんて、無理だろうな。とも感じました。なぜなら、何十年、何百年という歴史の中で、教えられて来た価値のあることというのは、お金や所有しているものが多いほど良いとする物質主義や、学校で誰かが決めた問題の答えを暗記し、それができるかできないかで競争させられる学歴や、その中で、勝ち組・負け組として、組織に入りトツプダウンで人間同士が支配し合うということなど、人間が作り上げた何か、洗脳とも言えるような考え方を植え付けられていたように思います。神様は支配もコントロールもしません。ですから、この仕組みを決めたのは人間であるとわかります。真面目で素直であればあるほど、どつぷりとはまり込み、見えている世界がいかに自分であると、何の疑いもなく当たり前のように思っていた人も多いのではないかと思います。世の中の教育から価値観の全てが、真理とは真反対のところにあるような時代だったと思います。

そして「いよいよ時代がきた」のです。

今まで当たり前とされてきたことが、一瞬で変わりました。学校のあり方も、終身雇用も何もかも変わろうとしています。

これから数年かけて破壊と再生が起こっていくのだと思います。人間の傲慢さやエゴ、支配で作られてきた時代は、神様からの、目には見えない感染症という一手でようやく終わろうとしていると感じます。神様は、目に見えない感染症を通して、目に見えない世界を感じさせようと思われています。目に見えることから始まるのではなく、全ては内側から始まると言っていることを教えてくれていると思います。

この時代の転換期に、感染症で出直された方々がいらつしやいます。人生は今この一瞬しかないということ、永遠はないということ、まだ生きている私たちに、自らの命をかけて深く尊い学びを下さった時代のヒーローだと感じています。神様選ばれし方々だと心から感謝しています。親神様の温かい懐で、今を生き残っている私たちが、感染症という因縁を生きて、再生していく姿を見守って頂きたいと心から願っています。私も命ある限り、この一瞬を精一杯生きていきたいと思っています。

そして、これからのニューノーマル、新しい生活というのは、いよいよ天理教の教えにあるような調和や共存の世界になってくると思います。今までの教育は答えが一つでしたが、顔や声が、

世界で同じ人が一人としていないように、みんなそれぞれの答えを持ち、生まれた時にみんな神様からもらった徳分をお互いに交換しあいながら、物質ではなく精神世界を重んじ、一人一人が輝く陽気暮らしの世界になっていくのではないかと思います。天理教の先人の方々が思い描いた世界が実現し、この世は極楽となるのだと信じています。

戦後からの時代は、文明の発達が急速に進んできたように思います。特にデジタル分野はめざましい発展で、今では一人一台スマホを持ち、指一本で、一瞬で世界と繋がる。しかも無料です。テレパシーのようなことだと思えます。しかし、文明発達の中でのお金儲けはそろそろ終わりだと感じています。組織に雇われ、自分でない何者かになって、言われたことをしておけば保証されていた終身雇用はもうなくなると思えます。そして、ほとんどのことはAIが人間の代わりをしてくれます。これからの人間はデジタルを駆使した精神世界に生きるのだと思います。精神世界や心を繋ぐことは人間にしかできません。いよいよ自分の本当にやりたいことを、自分の価値基準の中で、多様性とよばれる世界を生きていけるのだと思います。

今年、大変革期は、またはじまったばかりです。光輝く、陽気の世界になる前には、目に見えているだけの世界は、一見すると、

闇とも取れる時代を通過しないといけません。闇と光は一つですが、人間はそれを自分の主観で良いか悪いかジャッジしてしまいます。

その中で「一体、人生とは何なのか」と、今まで学校では教えてくれなかった、本質、真理、精神世界、神様の世界を自分から求める方がどんどん増えてくると思います。

本当の真理を知っている一人として思うことは、見えている世界は本当ではなく、全ての答えは内側にあること。そして、真理は頭で勉強するのではなく、生きることだということです。内側を見て、自分と神様と繋がって生きるのです。私自身今年一年はずっと自分との対話をしてきました。特に、見てみぬふりをしていた因縁の本質や、自分の今までの生き方の中で知らないうちに植え付けていた、恐怖、不安、罪悪感、無価値観、劣等感、人のせいにする、他人との比較、〜であるべき〜するべきという固定観念など、徹底的に掘り下げ、丁寧に見るように心がけました。

おちばや教会に参拝して、神様を拜んでいれば何とか助けてくださると安心してしまいがちですが、参拝できない今、本当の自分自身の見たくない部分に向き合うことを神さまに促されているように感じています。これからの時代に向けて、真理を知る私

たちも、改めて今までの古い価値観や思い込みを整理する必要があると思います。

私は特に、見てみぬふりをしている自分自身の内側を映し出してくれているのは、魂の繋がりで結ばれている夫婦だと思っています。夫婦の姿には、その人の内側の全てが現れていると思います。

私は世間から天理教を知った者として、天理教の方々の、夫婦や家族でいる時の自然な姿を見て、「心と言葉が一致しているか。本当の真理を生きているのか。」というのを見て感じてきました。今は、人に直接云って話をすることもなかなかできませんので、私の姿や私たち夫婦の姿から醸し出す、陽気で満たされている雰囲気や周囲が自然と共鳴していつてほしいなと思い、日々、少しずつでも、心と生き方が一致した、説得力のある姿を目指して、自分と神様と向き合っています。

人間は一人では生きていけません。人間のコミュニケーション能力が発達したのは、人間単体では、猿やチンパンジーより弱い生き物だからだそうです。今こそ一人一人の意識が内側に繋がっているのだと思います。不安や恐怖をあまりすぎるニュースや陰謀論でなく、私たちには、信じる真理があります。外側の世界に心

がブレることなく生きていきたいです。

特別なことをするのではなく、当たり前前のことを丁寧に、目の前にいる大切な人とのコミュニケーションを愛ある言葉に、温もりと安心を伝え合うこと。この一瞬の、自分から出る言葉や波動に意識を集中させることだと思えます。今は、遠くにいる誰かではなく、自分の一番前にある人間関係からの学びを得る時なのかもしれないと感じています。この大変革期にある、自分の一番手前に残った人間関係こそ、本質に目覚めるための、神様からの、心の鏡のプレゼントではないかと思えます。

私は、この先、今までの世界には戻らないと思っています。むしろ戻ってはいけないと思っています。物質世界の勝ち・負けの縦社会から、精神世界の調和のとれた横の世界に、地球規模で進化していくことを願っています。

『コロナ』とはスペイン語で『王冠』という意味です。これから一人一人が王冠をつけた主役になり、輝く陽気暮らしができる世界になることを祈っています。

神様は「因縁寄せて守護をする」と教えてくださっています。因縁を生きたることこそが人生の意味であり、人間に生まれてきた楽しさだと思えます。その因縁を互いに寄せて学びあうことで、最後には守護してくださる。ポジティブですばらしい教えたと思

います。

私たちは誰もが最後は、親神様の温かい懐に帰れるという真理を知っています。魂が身体をお返しした後も生き続けることを知っています。

この一瞬もいつかは大切な、今世での思い出です。同じ一瞬ながら、愛しさや、尊さや、光を見て、当たり前前に一緒にいてくれる、目の前にいる人と生きている喜びを分かちあっていたいと思います。どんな人も、誰かにとつての大切な人なんだと思つたら、世界は愛おしさと尊さに溢れていて、誰に対しても、自分の大切な人に接するように優しく生きていきたいと、心から思います。私の今年の御神言は「水を飲めば水の味がする」でした。何一つとして当たり前のない奇跡の毎日を実感しています。頼彦さんは、「同じ時代に存在してくれて、一緒にいてくれてありがとう。一つも当たり前前と思ってへんで。いつも感謝しています。」と毎日言ってくれます。私は今日も変わらず、目の前にいてくれる、大事な大事な神様からのプレゼントの旦那様に愛の全力を捧げたいと思います。(笑)

それでは皆さん今年一年ありがとうございました。来年はどんな年になるのか楽しみですね。ご静聴ありがとうございました。

# ☆お知らせ☆

☆1月26日(火) 11時30分 本部・春季大祭(祭典後に登殿参拝できます)

☆1月29日(金) 18時 詣所祭(在住者のみにて実施)

☆2月7日(日) 10時 女子例会=休会

☆2月14日(日) 9時半 おぢばがえりひのきしん・男子例会(詣所)

☆2月18日(木) 10時 女なりもの勉強会

☆2月22日(月) 前日準備ひのきしん

☆2月23日(火・祝) 11時 <月次祭>

☆2月26日(金) 9時 本部月次祭

☆2月28日(日) 18時 詣所祭

☆3月7日(日) 10時 女子例会 昼食後 春季霊祭と子育て講座

☆人生とは、生涯かけての心の成人・自分創り

そのために、用意されているのが

・おぢばがえり ・基礎講座 ・別席 ・三日講習会 ・修養科 ・講習

○修養科をおすすめしましょう!(毎月、25日までに申し込み)

- ・若い方=これからの人生の基礎固めとして
- ・年配の方=人生の美しい集大成のために